

VII 常設委員会

1 教育予算委員会

1. 職務・役割

教育予算委員会の検討方針：「大学予算に関する検討会」及び「大学運営会議」からの要請を受け、教育予算申請書の内容を検討した。その際、教育の質の担保に留意し、申請内容の妥当性を検討し、無駄を省き、今後の課題を明らかにして提言をまとめた。

なお、昨年度課題として提示されていた、教育予算と教育予算外の分類、特別講師の申請方法及びその可否、上級実践実習謝金の周知、TA・臨時助教に対する謝金の申請方法については、課題を検討の上で予算申請や資料の提出がされるよう周知をはかった。

2. 活動内容

1) 教育予算委員会開催

委員会の日程調整、予算申請方法・配布資料の確認、予算申請書の審査、修正予算の確認のため、計4回の委員会を開催した。

2) 予算申請に関する説明会の実施

2013年10月11日に予算関連の資料をイントラにアップし、2013年10月15日全教職員を対象に、「2014年度の教育予算の概算要求の方法について」「予算申請用紙」についての説明会を行い、2014年度教育予算総額は45,000千円以内を目標とすることを伝えた。

3) 予算調整過程

第一次予算申請総額は49,372千円(2013年度予算第1次申請額より5,469千円減)であり、4,372千円の削減が必要であった。委員会では、申請された教育予算について以下の5点を中心に確認・検討を行った。

- (1) 授業に関する科目予算および教務予算については、申請基準に照らし、①申請根拠、②優先度、③単位数および教育内容・方法の3点をもとに、教育予算として適切であるか否かを検討した。
- (2) 委員会活動予算については、委員会活動の内容と照合し適切であるか否かを検討した。
- (3) 全ての科目において申請予算の内容が教育予算として妥当かを書類、理由書、申請資料にて検討した。
- (4) 必要時予算担当者にヒアリングを行い、実質的に必要な予算のみを計上することを徹底した。

- (5) 2014年度実習費等(実習謝金、実習打合せ費用、非常勤講師、特別講師、TA、臨時助教)に関する予算について、申請基準に照らし検討した。

3. 2014年度教育予算調整結果

- 1) 申請された教育予算に対し最大限の検討を行った結果、最終予算は47,939千円となった。上限より2,939千円超過しているが、申請内容を見る限り必要最低限の申請であり、これ以上の削減は難しい。
- 2) 申請のあったDVD(6件249千円分)については今年度ビデオ予備費で購入することとした。

4. 課題

2014年度教育予算調整の過程において、今後の課題を次のようにまとめ提言とした。

- 1) 病院所属の特別講師・非常勤講師に対する謝金について
講師の教育のモチベーションを確保できるような配慮・仕組みが必要と思われる。
- 2) TA・臨時助教に対する謝金申請について
TA・臨時助教の確保が難しいという現状が、昨年度に引き続き明らかになった。
その理由を明らかにするためには、研究科委員会等関連部会でその原因を探る必要がある。また、TAを安定的に確保するために、時給単価の引き上げ等も視野に入れる必要がある。
- 3) 会議費の申請基準について
公平生の観点から、会議費支出は実習先との打ち合わせに限るのか、基準を定める必要がある。
- 4) 機器備品の購入について
機器備品は高額になるため、計画的に予算を組む必要がある。
- 5) 次年度以降の教育予算の編成について
法人一体化後、教育予算の在り方、編成方法等根本的な見直しが必要である。

2 広報委員会

1. 役割・職務

大学および大学院の受験生獲得に向けて、大学広報戦

略を検討し、学外に向けた広報活動の企画・実施（オープンキャンパス等、大学案内パンフレット等の作成）を行った。オープンキャンパスは、聖路加国際病院と協働し内容の充実を図った。昨年度スタートした中・高校生向け看護セミナー“集まれ未来のナースたち”は、開催日を増やした。また、広報室と連携し、これらのイベントの周知に努めた。広報委員会活動を効率よく遂行するために、昨年に引き続きチーム制にして各プロジェクトを展開したが、各プロジェクト活動が拡大したため、全メンバーが協力して行った。

- 1) オープンキャンパスの開催：（主メンバー）池口、加藤木、福田、松崎、櫛田、吉田
- 2) 看護セミナー“集まれ未来のナースたち”：高橋、福田、松崎
- 3) 大学案内パンフレット作成：福田
- 4) 学生広報委員会との連携：高橋、池口、櫛田、福田、松崎
- 5) 学外における広報活動：松崎、福田、吉田、片岡

2. 活動内容

プロジェクト毎に、年頭に目標と年間計画を立て、それぞれのチーム内で緻密に活動を展開した結果、2013年度は、学部、大学院とも志願者の増加に貢献することができた。活動内容の詳細は、以下の通りである。

1) オープンキャンパスの企画・運営

学生広報委員会・広報室との共同企画・運営による、オープンキャンパスを、6月29日（土）、8月3日（土）、4日（日）の計3回実施し、多くの来場者を得た（表1）。今年度も昨年好評であった聖路加国際病院見学ツアーを企画し、病院の協力のもと卒業生と学生広報で案内を行った。実際の病棟内を案内する企画であったが、就職先や実習先をイメージできると好評であり、聖路加ブランドへの期待の大きさを伺うことができた。また、自由に病院内を見学できるフリー見学枠も設けたことで、合計853名が参加した。2階ラウンジには病院紹介コーナーを開設し、病院パンフレットを置き卒業生による相談コーナーを企画した。

例年実施の企画として、在校生による相談、実技体験、学生による学内ツアーは好評であり、大勢の参加があった。これらの企画は、学生と直接交流でき、本学の雰囲気を感じると来場者のアンケート結果をみても満足度が高い。また今年は、教員・

奨学金相談コーナーを学生相談コーナーと同じ場所に移し、新たに6月と8月3日に大学院相談コーナーを設け、大学院受験希望者に向けてガイダンスを行った。ホールでは、昨年同様広報委員による大学案内オリエンテーションをおこなった。模擬授業は、6月は老年看護学、8月は母性看護学、基礎看護学の教員が行い、好評であった。

今回、学生広報のリーダーと広報委員が密に連携し、学生広報の意見を企画や運営に反映することで、協力してくれた学生たちが自分たちの大学をアピールするイベントを達成することができたという充実感を抱くことができた。

2) 看護セミナーの企画・運営

将来看護職を目指す高校生・受験生に看護の魅力について伝えていく目的で、「集まれ！未来のナースたち」と題した高校生向け看護セミナーを、今年度は2回開催した。1回目は、12月14日（土）に精神看護学の萱間真美教授による「看護の魅力～こころのケアを届けるアウトリーチ～」のテーマで、2回目は3月15日（土）に母性・助産看護学准教授による「看護の魅力～新しく生まれる家族の誕生に寄り添う～」のテーマで開催した。参加者は、1回目90名、2回目が96名であった。また、今年度は、初めての試みとして、看護週間の5月18日に国際推進委員会との共催企画として Global Health Seminar と大学説明会を同時開催した。

3) 病院との連携

今年度も、夏休みに聖路加国際病院で1日看護体験をする高校生とボランティアに参加する高校生を対象に聖路加看護大学の紹介をした。病院の看護部の担当者やボランティアコーディネーターの方と打ち合わせを重ね、大学案内のパンフレットの配布と共にオープンキャンパス、白楊祭などのイベントの案内を通して広報活動を行った。オープンキャンパスのアンケートからは、この活動により本学を知り興味を持ったという回答があったことから、来年度も継続して同様の活動を展開していきたい。

4) 2014-2015大学案内パンフレットの作成

昨年度に引き続き、梁プランニング（3年契約3年目）とのパートナーシップを結び、作成を行っている。完成は2014年5月の予定である。冒頭から6ページに法人一体化に関する記事を掲載する予定である。また大学名

変更に伴い、全ページ校正を行い、情報の更新を行った。

5) 学生広報委員会との連携

オープンキャンパスの開催にあたり、学生広報委員会と連携し、計画・運営を行った。白楊祭においては受験生相談コーナーを学生広報委員と連携して行った。さらに、夏休みの母校訪問を学生広報委員と進めた。

6) 学外における広報活動

新宿セミナー等の入試相談会に広報室と協力して参加した。さらに、高等学校からの依頼に応じて、大学の紹介および看護に関する講義を行った。

3. 課題

今年度は、学部・大学院ともにすべての入試において志願者数が増加した。昨年よりも委員数が減った中、全教職員の協力を得ながらの成果達成であった。

昨年度課題にあげていた「オープンキャンパス等の内

容検討と回数の増加」については、オープンキャンパス参加者数の増加だけでなく、病院見学の継続とツアー数を増やしたり、大学院説明会を開催したり、学生広報委員はもちろん卒業生の協力も得るようにした。また、看護セミナーを年に2回開催し（昨年からは1回開催）、高校生などの本学志願者との接触機会を増やした。

「大学案内パンフレット以外の多様な広報誌の作成」の課題については、広報室で受験生に向け「Lu-Bre」を創刊し対応した。

「学生広報委員会との連携改善」の課題については、ノベルティグッズの作成やオープンキャンパス終了後の振り返りの会を工夫するなど、中心となった学生委員の協力もあり、連携は強化されたと思われる。今後に向け、2014年度予算学生広報への謝礼の増額を申請した。

次年度は「大学院入試広報の強化」を課題として、入試事務室や入試委員会の協力を得ながら改善を行ってきたい。

5. 資料・データ

表1 2013年度オープンキャンパス来場者数

(単位：人)

	受験生 (内大学院受験生)	保護者	合計
6月29日 (土)	262名 (33名)	140名	402名 (昨年362名)
8月 3日 (土)	473名 (42名)	347名	846名 (昨年530名)
4日 (日)	523名 (2名)	357名	880名 (昨年855名)
2013年度オープンキャンパス合計来場者数			2128名 (昨年1747名)

3 情報システム委員会

1. 役割・職務

1) コンピュータシステムに関する運用、管理上の諸問題の検討

- ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク利用規程
- ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク倫理規程
- ・情報システム委員会規程

2) システムの運用の向上を図るための企画

2. 活動内容

1) 学生情報システム委員会について

学生委員は学部生12名、大学院生2名である。今年度は5月、7月、10月の計3回学生合同情報システム委員会を行った。6月にメールシステムの変更があったため、学生への周知の方法について学生委員と意見交換をし、混乱が少ない移行を図った。また、メールシステム移行後の状況やそのほかのサービスの利用状況について、各学年の状況や率直な意見などを学生委員から得ることができた。メールシステムとしてはGmailを使い慣れている学生も多いため、混乱は少なかった一方で、システムの変更を全く知らない学生もいたことがわかり、周知の方法について課題が残った。情報システムについて学生からの意見としては「メールがスマートフォンでアクセスしやすく便利になった」「Wifi環境が整い、どこで

も自分の PC を使用できて便利になった」など、利便性について肯定的な意見が多く聞かれた。

2) GoogleApps の導入

2013年6月に学習環境の向上と Microsoft 社によるサポート終了への対応を目的として、Google Apps for Education (Gmail, Google ドライブ、Google カレンダー) を導入した。

Google Apps for Education 主要サービスの1つである Gmail はスマートフォンやタブレットとの相性もよく、また従来のシステムでは行っていなかった名前の登録も行ったことでメールの利便性がかなり向上したと思われる。

3) 施設予約システムの導入

演習室などの WEB 予約システムを Google Apps for Education を用いて構築。これにより、より活発に学内施設を利用することが可能となった。今後は使用状況および意見の集約を行い、サービス継続・拡大の検討を行う必要がある。

4) 無線 LAN サービスの利用拡大

昨年度、2号館と本館の一部でインターネット無線接続サービス (Wi-Fi) の試験提供を実施した。実施に伴う運用上の問題はなく、学生情報システム委員会等を通じてサービス拡大を希望する声があった。これを受けて、2013年10月28日より2号館、本館の全フロアにアクセスポイントを増設して提供を開始した。学生の要望によりサービスを拡大したことで、学習・情報環境の向上につながっているものと考えられる。

5) 持込 PC からの印刷サービス開始

2013年10月28日からの無線 LAN サービス拡大に併せて学生が持ち込んだ PC から大学内に設置しているプリンタへの印刷サービスを開始した。

本サービス開始後に印刷された枚数のうち約3%が持ち込んだ PC からの印刷によるものであった。引き続き利用状況をもとに、今後のサービス提供を検討していく必要がある。

6) 両面印刷ユニットの設置

昨年度、405号室および2号館メディアルームにあるプリンタに両面印刷ユニットを3台設置したところ大学院生からサービス拡大を希望する声があった。これを受けて2013年6月に両面印刷ユニットを4台追加 (修士ラウンジ1, 2, 3, 博士ラウンジ) 設置し設置後に印刷された枚数のうち約54%が両面印刷

によるものであった。

3. 課題

1) 昨年度からの課題への取り組み

今年度は、Google Apps の導入によって、つぎのようなサービスが利用できるようになった。

- ・ gmail により、従来のメールアドレスの変更なしで場所を選ばずメールの送受信や検索
- ・ Google カレンダーによる会議室予約等のスケジュールの共有
- ・ Google ドライブによるクラウド上でのファイルの共有や複数のパソコンとの同期

これらと、Wi-Fi 環境の拡充により、どこでもパソコン、タブレット、スマートフォンなど端末を選ばずに活用できることで、いわゆるアクティブラーニングなどユビキタスな学習環境が整ってきた。

2) 今後の課題

Google Apps という新システムへの移行プロセスでは、ポスター掲示や講習会も行い、大きな問題は生じなかった。しかし、その周知においては十分には徹底できていなかったことも判明し、さらなる新サービス導入時には、周知方法を再検討する必要がある。新サービスとしては、昨年度公開しなかった、Google グループによるメーリングリスト作成、Google+ による SNS と電子会議の活用やブログやサイトの簡便な作成などがあげられる。

また、学生から提案のあった Web での情報確認、講義資料の電子化の実現においては、教務で e ポートフォリオの導入が試験的に導入されたため、Google Apps との連携について検討していく必要がある。

自由度が高いシステムでは、そのぶん、ユーザーが自分の端末を自分で管理する必要があるため、基本的な情報リテラシーの獲得とその支援が不可欠である。定期的に講習を行ったり、わかりやすいマニュアルやガイド、FAQ などを作成する必要がある。この作業においては、専門家がただ一方的に作成しているのでは、学習効果も期待できず、ユーザーのニーズに合わせにくい。そのため、学生情報システム委員会を含めた学生有志や各部門の教職員と一緒に、それらの学習システムを作り上げていかなくてはならない。

また、病院との一体化に伴い、各々の情報システ

ムやネットワークにおいて統合できる部分についても検討していく必要がある。

014年1月より本学での受入れ開始に至る)

②イリノイ大学への派遣プログラム実施検討
(2014年1月に相手校へ赴き協議の結果、2015年夏に本学から数名を約10週間派遣するプログラム実施の合意に至る)

7) 国際化推進の資金申請 (日本学術振興会留学生交流支援制度2013年採択、2014年申請)

8) 白楊祭参加：活動紹介展示・海外プログラム体験
学生によるプレゼンテーション

9) SNS サービス (Facebook 及び Twitter) を活用した委員会情報発信

4 国際化推進委員会

1. 役割・職務

国際化推進委員会規程に基づく

2. 活動内容

1) タイ、韓国、台湾との交換留学プログラムの実施
[表1参照]

①派遣学生の募集、選考の実施、②派遣学生への単位認定、③受入れプログラムの実施

2) 学生国際化推進委員会による交換研修生歓迎会、
交流プログラムの企画及び実施

3) 聖路加看護大学 Global Health Seminar(全3回)
の実施 [表2参照]

4) NCLEX-RN 講座 2nd(全9回)の実施 [表3参照]

5) 学術交流協定校との新規学生派遣・交換プログラム
実施検討

①高雄医学大学との短期交換研修プログラムの交
渉と実施 (2013年8月に相手校へ赴き協議の結果、

3. 次年度への課題

1) 新しい交換留学プログラムの検討を継続し、次々
年度を目標として具体化を目指す。

2) 挑戦的資金の獲得と教育予算内で可能なグローバル
人材育成施策の検討と実施。

3) 本学の国際化推進をグローバルキャリアマップと
して作成し、学生に概観できるようにする。

4) 本学の国際化推進の活動を受験生に広報する戦略
を検討する。

4. 資料・データ

表1 2013年度交換研修プログラム等実績

国	相手校	滞在期間	参加者名
受 入	タイ マヒドン大学 (4名)	2013年9月14日(日) ～9月28日(土)	Ms. Nalin Suleesathira (4年生), Ms. Boonyapa Nontijan (4年生) Ms. Tanuttha Udomsiririkom (4年生), Ms. Rujira Pajjing (4年生)
	韓国 ヨンセイ大学 (6名)	2013年7月4日(木) ～7月17日(水)	Ms. Sun Young Jang (3年生), Ms. Minha Kim (3年生), Ms. Ga-Yeong Lee (3年生), Mr. Yun Hyeong Lee (3年生), Ms. So Young Shin (3年生), Mr. Jin Woo Yoon (3年生)
	台湾 高雄医学大学 (2名)	2014年1月5日(日) ～1月18日(土)	Ms. Yi-Ling Chen (3年生), Ms. Hsin-Yu Lin (3年生),
派 遣	タイ マヒドン大学 ラマティポディ校 [4名]	2013年8月7日(水) ～8月20日(火)	浅倉 美貴 (2年生)、小林 彩音 (2年生)、轡田 みどり (2年生)、 佐藤 翔子 (2年生)
	韓国 ヨンセイ大学 (6名)	2013年9月5日(木) ～9月17日(火)	安 奈美 (2年生)、杉本 あま乃 (2年生)、埴 千賀子 (2年生)、平山 萌 菜 (2年生)、萩野谷 美奈 (2年生)、柏木早穂 (学士17回生)

表2 2013年度聖路加看護大学 Global Health Seminar 実績

日時	講師/発表者名、内容		参加人数
2013年5月18日(土) (広報委員会との共催)	阿川 牧	グローバルヘルスを紡ぐ実践力：セミナー「プロジェクトマネジメントについて」	108名
	赤尾 和美 東間 未来	グローバルヘルスを紡ぐ実践力：トークセッション	
	ブース展示セッション：NPO 法人アジア・チャイルドケア・リーグ (ACCL)、認定 NPO 法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN、NPO 法人 HANDS(Health and Development Service)、認定 NPO 法人難民支援協会、認定 NPO 法人シェア=国際保健協力市民の会 (SHARE)		
2013年6月13日(木)	大塚 美香	「グローバルヘルスを紡ぐ実践力」：福祉・教育分野での経験から、海外に目を向けるようになったきっかけ、現在のキャリア選択の動機、今日に至るキャリアパスについて	19名
2014年1月28日(金)	石松 伸一 金子 あや	「与えること、与えられること」-医療従事者のボランティア活動を支えるシンプルな情熱：医療従事者としてキャリアを重ねながら国内外でボランティアを行う理由と、活動から得た気づきや学びについて	26名

表3 NCLEX-RN トライアル講座(全9回)実績 (参加申込人数)

学部生	9名 (うち本学学生6名)
大学院生	2名 (うち本学学生1名)
社会人・一般	12名 (うち本学卒業生6名)
合計	23名

5 表彰運営委員会

1. 役割・職務

委員会は、本学の学生および教職員が互いの努力を称え、感謝の意を伝えあう機会を提供するため、以下に挙げる各賞等に関する事項の審議ならびに実務を行う。

- 1) 教員の教育活動・研究活動やその成果に関するもの
- 2) 学生の学習成果や活動内容に関するもの
- 3) 学内の職員の活動に関するもの
- 4) 学生の社会的活動に関するもの
- 5) キリスト教精神の学習や関連する活動に関するもの
- 6) その他表彰委員会で定めたもの

2. 活動内容

1) 表彰内容、対象者、方法の決定

教職員委員および学生委員との合同会議により本年度の表彰対象者と表彰名、対象選択方法、選択時期、授与の時期や場、表彰状や記念品の内容を決定した。

「クラス表彰」は修士・

博士1年目を加えて、クラスでの貢献者を学生が推

薦しクリスマス会での表彰を行った。「チャプレン賞」はチャペル委員が中心に活動し、チャペルアワールの出席ポイントが高い学生が受賞した。「グッドティーチャー賞」前期は今年度初めて非常勤講師が受賞した。総合看護・看護研究Ⅱの各発表会場から選出された「グッドプレゼンター賞」は12名であり、2階ラウンジに発表内容をポスター掲示した。「SLスター」は学内部署の取材を学生委員が選択し実施した。「グッドボランティア」は学生委員の調査や教員・大学院の推薦で選出した。

2) 広報

1年間の表彰内容とスケジュールのポスター等を学内に掲示し周知を促した。また、学生委員による各クラス等への呼びかけにより、対象者の選択や投票を促した。その結果、グッドティーチャー賞は過去最高の186名が投票した。表彰結果は学園ニュースに掲載した。

3) 表彰式の運営

クリスマス会および創立記念行事での表彰式において、教職員委員および各学年の学生委員が式の運営を行った。

3. 課題

- 1) 投票や表彰者選出への関心、創立記念行事時に行う表彰式の参加者の増加が課題である。広報および表彰時期についても検討したい。今回大学院の参加の機会が減少してしまった。大学院が参加できる企画をしていく必要がある。
- 2) 同様の方法を繰り返すと表彰者が固定化される企

画も出てくる可能性がある。表彰企画の主旨からも、多くの人の活躍を知ってもらう機会をつくる必要がある。

- 3) 教職員委員と学生委員とのスムーズな連携のために、学生が動きやすい時期や連絡方法を考慮しながら運営していく必要がある。

4. 資料・データ

表1 表彰名、表彰対象者、選出方法、表彰会場

表彰名	選出方法 / 受賞者 (敬称略)	表彰会場
チャブレン賞	【選出方法】チャベルアワーの参加ポイントが多かった学生1名を選出 【受賞者】並木桃子(3年生)	創立記念行事
グッドプレゼンター賞	【選出方法】総合看護・看護研究Ⅱの発表会会場で各1名を選出 【受賞者】川上玲子、澤田彩乃、大塚早記、松本砂里、星名美佳、佐藤舞、川口彩香、丸山紗希、小林真衣、徳永亜衣子、安田理恵、松谷遥	創立記念行事
グッドティーチャー賞	【選出方法】優れた教授を行った教員を、学部生が前期・後期に投票。各1名を表彰 【受賞者】川名賢一郎(前期)・伊東美奈子(後期)	創立記念行事
クラス表彰	【選出方法】クラスに貢献したクラスメートを学部の各学年・各学士編入、大学院の各コースで選出 【受賞者】矢花瑠理子(学部1年)、本山浩子(学士17)、河内由佳子(2年生)、実習を必死でがんばる3年生・編入16回生全員(学部3年・学士16)、板橋みずほ(学士15)、内山貴美子(4年生)、滑川愛美(看護学専攻修士1年)、秋葉友紀子(ウイメンズヘルス・助産学専攻修士1年)、緒方愛(博士1年)	クリスマス会
SLスター	【選出方法】大切な役割を担っている学内部署を「今年のスターの部署」として学生委員が取材し、紹介 【受賞部署】危機管理室(1年生・学士17)、広報室(2年生)、健康管理室(3年生・学士16)、図書館(4年生・学士15)	創立記念行事
グッドボランティア	【選出方法】過去に紹介されなかったボランティアを行っている個人あるいはグループを調査し、委員会で表彰対象者を選択 【受賞者】平山萌菜(2年生)(小学校の補習手伝いなど様々なボランティア)、大森沙樹(学士17)(カンボジアでのボランティア)、萱沼義三(管財委託職員)(校内外の植物のお世話)、竹内翔子(博士2年)(産科クリニックボランティア)	創立記念行事
学会等受賞者紹介	【紹介内容】優れた研究により学会等で表彰された教員・学生を表彰式場で紹介(氏名と受賞理由・研究テーマ) 【受賞者】大久保暢子(日本私立看護系大学協会看護学研究奨励賞、日本看護科学学会学術論文優秀賞)、角田秋・柳井晴夫・萱間真美他(日本看護科学学会学術論文奨励賞)、有森直子(共同執筆)(第42回シグマ・テータ・タウ・看護学国際名誉学会最優秀看護学論文[臨床部門])、白木和夫(平成26年度日本小児科学会賞) 堀内成子・新福洋子(ファイザーヘルスリサーチ振興財団国際共同研究助成金「アフリカの思春期リプロダクティブ・ヘルスプロモーション」)、亀井智子(国際遠隔医療学会 Excellent abstract award)、朝澤恭子(博士3年)(第16回 East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS) Outstanding Research Award 受賞)、柳井晴夫(ご逝去に際して従四位 瑞宝小綬章)	創立記念行事

6 紀要委員会

1. 役割・職務

- 1) 聖路加看護大学紀要委員会規程を参照。

2. 活動内容

- 1) 紀要第40号の発行
 - (1) 名誉理事長・理事長・学長・学部長・同窓会長から40号を記念する特別寄稿を得た。
 - (2) 投稿申込み数は27本（原著2、研究報告8、論説1、短報16）であった。その後、原稿の取り下げや論文種類の変更があり、最終的には21本（研究報告3、論説1、短報17）を掲載した。
 - (3) 掲載論文数が多いため、目次を表紙・裏表紙に印字せず、表紙デザインを変更した。
 - (4) 3月12日に650部を発行した。

3. 課題

- 1) 2014年度からの大学名の変更と組織の改組に伴い、「聖路加看護大学紀要」の名称変更、また投稿要項の見直しを、早急に行う必要がある。
- 2) 看護の研究成果を発表できる学会誌が増えている現在、紀要の位置づけを再考し、投稿資格者や論文種類・字数の変更、査読の有無などを検討する必要がある。
- 3) 投稿申込みの取下げや、申込み以降の論文種類変更が増加していることへの対策が求められる。

7 入試委員会

1. 役割・職務

- 1) 聖路加看護大学入試委員会規程により看護学部入学者選抜の実施に関する事項を審議し公正な方法で実施運営を図る。
- 2) 審議事項は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、入学者選抜方法の検討と選抜試験の実施、入学選抜に関する情報提供および情報開示、各委員（出題、校正、面接、採点）の人選、入学者選抜の統計、その他入学者選抜に関すること。重要事項は教授会の議を経て決定する。

2. 活動内容

- 1) 委員会は常設で定例会は原則毎月1回開催した。

- 2) 7月末に指定校推薦入学試験の事前説明会を企画した。（参加申し込みと出願なし）
- 3) 入試ミス防止のため第三者による入試問題事前チェックを2014年度学士編入学「生物」、2014年度一般入試「理科（生物Ⅰ、化学Ⅰ）」「英語」「国語」の合計5科目について実施した。
- 4) 推薦・帰国生・指定校入学試験の選考基準を明確に定めた。一般入試については2013年度の選考基準について検証を行い、その結果、2014年度も同じ選考基準を用いることになった。
- 5) 2014年度推薦・帰国生入学試験受験者を対象に、本学を知った時期、受験勉強開始時期、本学来校回数等のアンケート調査を実施した。
- 6) 在校生の入学試験面接評価と入学後の学習状況について分析と評価を行った。
- 7) 一般入試マニュアルの見直しを行い、改訂版を作成した。
- 8) 2014年度一般入試の出願速報を受付開始5日目、10日目、最終確定の計3回公表した。
- 9) 2013年度一般入試および2014年度学士編入学入試において情報開示を実施した。
- 10) 大学入試センター導入について、試算算出、労力と費用、会場等について検討したが、導入は見送ることになった。
- 11) 一般入試改革に向けての情報収集として、広報委員会との共催で、河合塾(株)KEI アドバンス、マイナビによる全教職員への講演会と、河合塾(株)KEI アドバンスによる入試委員会委員および広報委員会委員を対象としたコンサルテーションを実施した。
- 12) 平成21年告示高等学校学習指導要領に対応した出題教科・科目等について検討し、2015年度（平成27年度）一般入学試験は、【1次】＜必須：英語＞「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」＜必須：理科＞「生物基礎」「化学基礎」＜選択：国語＞「国語総合」（古文・漢文を除く）「現代文」＜選択：数学＞「数学Ⅰ」「数学A」【2次】＜小論文＞および＜面接＞と決定し、大学ホームページ上で公表した。1次試験の旧教育課程履修者に対する経過措置および2016年度（平成28年度）実施の「国語」と「英語」の科目、試験時間、配点等については、2014年度中に決定し公表する予定である。
- 13) 2015年度（平成27年度）看護学部入学試験より、アドミッションポリシーの一部を【現】「探究心の旺

盛な人」→【新】「科学的な探究心の旺盛な人」に改訂。

14) 2015年度入試会場について選定を行い「ベルサークル神田」に決定した。

収容人数に制限があるため、志願者数によっては、大学と2会場で実施する。

15) 教学社「大学入試シリーズ(赤本)」の2015年度版新規刊行が決定した。

16) 2014年度推薦・学士編入学の入学予定者および2014年度一般入学試験志願者へ校名変更について書面にて周知した。

3. 課題

1) 「英語」出題者より、校正中に試験問題が変更するため第3者による入試問題チェックを「事前」に加えて「事後」にも実施してほしいとの要望があった。今後、予算化が必要である。

2) 新学習指導要領による2016年度(平成28年度)一般入学試験「国語」および「英語」の出題科目の決定と公表

3) 他大学(看護系)との入試日程調整による受験生の確保

4) 募集要項へ記載可能な時期の奨学金制度の決定

5) 募集要項の取得資格に関する標記の確認

6) 入試結果の継続的な分析と評価

7) 入学者選抜規程の検討

8) 出願方法および入学検定料支払方法の検討

9) 合格発表方法の検討

10) 入試広報のあり方(重点)の検討

8 FDSO 委員会

1. 役割・職務

学部・大学院の教育・研究活動及び大学組織運営推進のために行う、Faculty Development (FD) および Staff Development (SD) に関する事項の審議ならびに実務を行う。

2. 活動内容

1) 教職員および組織のニーズに基づき FDSO 研修を企画・実施・評価した(表1)。

2) FDSO-Week では各回の後半にグループワークを取り入れ参加型とし、本学で取り組むべき課題に対する関心を高めた。全教職員対象の研修会(学事)では、病院の関係部署からの参加を呼びかけ、合同で行った。成果は FS ミーティングにおいて共有した。

3) FDSO マップに基づき各種研修を位置づけ、自己の能力開発・管理について FS ミーティングにおいて解説した。

4) 特色ある大学をめざし、教員力・職員力を高める研究交流の場としてサイエンスカフェのプログラムを新規に導入した。

3. 課題

1) 法人組織の経営および教育研究活動を推進する FDSO 研修を企画・実施・評価する。

2) 教職員個人の FDSO の自己開発・管理、法人全体の FDSO の共有・体系化を進める。

3) 業務遂行に役立つ実用的な技術研修会(役立つツール道場)を継続する。

4) 教員力・職員力を高める研究交流の場(サイエンスカフェ)を継続する。

4. 資料・データ

表1 2013年度 FSDS 研修一覧

時期	テーマ (MAP 領域)	講師 (所属)	場所	参加人数
8月5日 (月) FSDS-Week	大学運営における事業管理 ～事業計画の立て方・書き方～ (主に職員向・共通ⅠⅡ)	渡辺明良事務局長	本館 402	教員17 職員26
8月6日 (火) FSDS-Week	“大学と病院の法人一体化”の実現に 向けて～一体化により何が可能になる か～ (教職員向・共通Ⅲ)	福井次矢理事・院長 渡辺明良事務局長 菱沼典子学部長 柳橋礼子副院長	本館 講堂	教職員83 病院26
8月7日 (水) FSDS-Week	“大学教育の質的転換”に向けて～主 体的に考える力を育むアクティブラー ニング～ (主に教員向・教育Ⅱ共通Ⅱ)	菱沼典子学部長 三浦真琴教授 (関西大学教 育開発支援センター)	本館 402	教員40 職員11
10月4日 (金) サイエンスカフェ	メンタリングの機能と効果 (教職員向・共通Ⅱ・研究Ⅰ)	萱間真美教授	本館 2階 ラウンジ	教員11 職員2 院生2
12月3日 (火) サイエンスカフェ	Building your research around your passions : story of one activist scholar (教職員向・共通Ⅱ・研究Ⅰ)	Dr. Alicia Matthews (イリノイ大学)	本館 2階 ラウンジ	職員2 教員11 院生5 学部生2
1月31日 (金) まなば道場	e-Portfolio manaba course2の使い方 (教職員向・共通Ⅰ・教Ⅰ)	栗原彩 (株式会社朝日ネット)	2号館 メディアルーム	教員 19 職員 7 学生 3
3月7日 (金) サイエンスカフェ	女性のリプロダクション健康課題の意 思決定支援 (教職員向・共通Ⅱ・研究Ⅰ)	有森直子教授	本館 2階 ラウンジ	教員4 職員5 院生1

9 衛生委員会

1. 役割・職務

衛生委員会は、教職員の健康障害の防止、健康の保持増進、労働増進、労働災害の防止及び快適な職場環境を形成するための調査審議及び提言を以下の通り行う。

- 1) 教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること
- 2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること
- 3) 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生にかかわるものに関すること
- 4) その他教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項

なお、定例委員会は毎月1回第3火曜日とする。

2. 活動内容

- 1) 2013年度活動方針の策定
- 2) 時間外労働の実態調査

－財務経理課より長時間労働者一覧の提供があった。時間外労働の実態を把握する為、昨年度の長時間時間外労働者(年200時間以上)へ勤務内容・有給休暇の取得状況等について、ヒアリングを実施した。

3) 有給休暇取得率の把握

－2013年度の取得率は平均して25.9%(2012年度末退職者を除いた場合には、19.2%)であった。これは、業界ごとの有給取得率(2012年度厚生労働省就労条件総合調査)の教育・学習支援事業40.0%を大きく下回った。

4) ハッピーマンデーに実施される授業についての検討

－2013年度は祝日であるハッピーマンデーに授業が行われていたが、運用として好ましくないとの意見もあったため、FSMにて教職員より意見・提案を募集した。結果、2014年度はハッピーマンデー分の授業は土曜日に振り替えることとなった。

5) 教職員健康診断受診状況報告、感染症の状況報告

－健康診断受診状況報告は4.資料・データを参照。また、今年度の感染症報告はゼロであった。

- 6) インフルエンザ予防接種実施の増進
- 7) 2014年度の他大学の衛生委員会の運営方法・状況についてのヒアリング

3. 課題

- 1) 有給休暇取得率の向上
- 2) 時間外労働の改善
- 3) ワクチン接種率の向上

4. 資料・データ

表1 教職員定期健康診断

(人)

年度	35歳未満	35～40歳未満	40歳～75歳未満(特定健診) ^{*1}		
			対象人数	受診	受診率
2012年度	8	11	61	59 ^{*2}	96.7%
2013年度	7	14	62	57 ^{*3}	91.9%

*1：予防医療センター半日ドック利用者

*2：他院受診者2名を含む

*3：他院受診者（結果未提出のため）含まず

5. その他

2014年度からは聖路加国際メディカルセンターとの一体化計画により、衛生委員会を統合することとなった。

10 ファカルティ・スタッフミーティング

1. 役割・職務

- 1) 教員および職員参加による学事全般に関する連絡、報告を行う。
- 2) 教員および職員参加による学事全般における討議事項を議論する。
- 3) 連絡報告および討議検討を通して、情報共有と周知を図る。

2. 活動内容

- 1) 原則、月1回(4/2, 4/16, 5/28, 6/18, 7/23, 9/17, 10/15, 11/19, 12/17, 1/21, 2/18, 3/5)、連絡・報告及び検討事項の活発な意見交換を行った。定例の連絡・報告は、学長、学部長、事務局長、教務部長、学生部長、看護実践開発研究センター長、図書館長、健康管理室より行われ、委員会等からは伝達事項がある際に適宜行われた。入学式、卒業式などの重要行事の役割分担やマニュアル確認の場ともなっている。
- 2) 本年度は特に、聖路加国際病院との法人一体化に関する連絡・報告、検討が多くなされた。前半は、文部科学省への申請の状況について、一体化が決ま

った後半は、大学名称や寄付行為の変更、組織の構成、実習のあり方、就業規則など具体的な事柄についての報告・説明があり、様々な意見が聞かれた。また一体化も見据え、今後の学部・大学院教育充実のため6つのプロジェクト（私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、アクティブ・ラーニングプロジェクト、学部カリキュラム改訂プロジェクト、学士編入2年制導入プロジェクト、FNFプロジェクト、大学院における保健師国家受験資格コースプロジェクト）を立ち上げメンバーを募集した。各プロジェクトは後期から始動し、eポートフォリオの開発など一定の成果をあげたものもあるが、多くは大学主管の委員会に発展し、次年度以降も活動を継続することとなった。その他、次年度は大学基準協会の受審が予定されているため、学内が一体となって協力していくことを確認した。

3. 課題

教職員が一同に会する唯一の定例会議であり、情報共有するという点においては十分に機能している。聖路加国際病院との法人一体化にともない病院との人事交流も増えるため、新たな視点も取り入れつつ、教職員のより活発な意見交換の場として発展することが期待される。